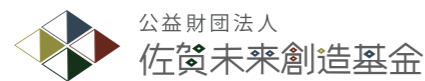
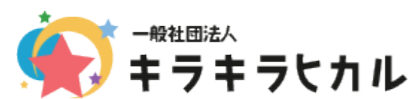


Achievement Odyssey

Three-year Review



佐賀県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデル運営支援事業報告書(2021年7月～2024年3月)

制作:公益財団法人 佐賀未来創造基金

〒840-0813 佐賀市唐人二丁目5番25号
TEL 0952-26-2228
FAX 0952-43-7047
Mail info@saga-mirai.jp



協力(子ども第三の居場所 運営団体):

特定非営利活動法人 空家・空地活用サポートSAGA
一般社団法人 かがみこどもプラザ
一般社団法人 キラキラヒカル
一般社団法人 ここてらす

佐賀県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデル運営支援事業報告書

(2021年7月～2024年3月)

このパンフレットは、日本財団 2023年度 佐賀県における『子ども第三の居場所』コミュニティモデルの運営支援事業の助成を受けて作成しています。





本報告書の趣旨

2021年より3年間、日本財団 子ども第三の居場所事業の助成を受けて、佐賀県内に4つの「子ども第三の居場所」が開設・運営され、2024年度からは各運営団体による自立運営という形で継続されています*。

弊財団は、佐賀県、日本財団との三者協定を締結し、そのパートナーシップとご協力をいただきながら、各運営団体への伴走支援を行ってきました。

本報告書では、その事業モデルを可視化することで、本報告書を手にとっていただける方と、各運営団体との協働や支援の創出、並びに、新たに地域に必要な機能として子ども

第三の居場所の開設を志す方の参考となるように、これまでの事業の軌跡や成果をまとめたものとなります。

本事業を実施するにあたって、日本財団、佐賀県、運営団体をはじめ、行政、各種支援団体、地域住民、地域の企業・事業所など、本当にたくさんの方々にご支援・ご協力をいただくことで全うすることができました。

この場を借りて、感謝申し上げますとともに、今後ともかわらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

※ 4団体のうち1団体は、2025年度からの自立運営となります。

もくじ

● ごあいさつ	1	● 佐賀県における行政との包括的な協働	14
● 子ども第三の居場所事業について	2	● 各市町からの応援メッセージ	15
● 子ども第三の居場所拠点マップ	3	● 子ども第三の居場所を応援する	16
● 拠点紹介	4	● 子ども第三の居場所支援者の皆様 (ボランティア含む)	17
● 居場所そら	4		
● ミライエ	6		
● 子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津	8		
● ここてらす	10		
● 伴走支援の取り組み	12		

ごあいさつ

MESSAGE

この度、日本財団様の助成を受けて、佐賀県における子ども第三の居場所運営支援事業を実施させていただきました。また、本事業で、助成と伴走支援をさせていただいた県内4拠点の団体様においても、大変なご尽力ありがとうございました。

3年間の助成事業を通して、子ども第三の居場所事業に取り組んだことは、社会全体にとって非常に重要な効果をもたらすものと改めて実感しています。

子どもたちが安心して過ごし、成長していける場所を提供することは、次世代の健全な発展と社会全体の福祉にも貢献するものであるからです。

昨今、子どもの貧困問題は、経済的な面だけでなく、関係性の貧困、体験・経験の貧困、それらによる、貧困の連鎖など様々な問題を抱えています。

子ども第三の居場所で提供される機能は、「安心して過ごせる居場所」「健康を支える食事」「正しい生活リズム」「学習のサポート」「体験機会」「地域や大人とのつながり」「保護者のフォロー」など多種多様です。この機能により、子どもたちとのコミュニケーションを通じて、様々な課題・困難を抱える子どもの早期発見、支援、そして、専門機関・行政との連携による解決へと結びつく役割を担っています。

また、本事業を遂行するにあたり佐賀県様をはじめ、佐賀市様、唐津市様、基山町様には、たいへんご尽力・ご協力を賜り、ほんとうにありがとうございました。各自治体様のご協力により、各拠点の児童集め、自立に向けた支援者獲得において大きな違いを生み出せました。

結びになりますが、この3年間の助成期間が終わり、唐津拠点(ミライエ、子どもの居場所「じゃんぷ」西唐津)、基山拠点(ここてらす)は、自立運営をスタートさせます。(佐賀拠点(居場所そら)は次年度より自立運営) 子ども(第三)の居場所を自立して運営していくことは、簡単なことではありません。これからも子ども第三の居場所各拠点のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

みんなが、みんなの子どもを育てる社会の実現と、その先によりよい佐賀の未来のために、今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人 佐賀未来創造基金
代表理事 山田 健一郎

子ども第三の居場所について


ABOUT

すべての子どもたちに、安心できる居場所を

家庭が抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中、子どもが安心して過ごせる居場所がなく、孤立するケースは少なくありません。

すべての子どもたちが未来への希望を持ち、安心して過ごすことができる「子ども第三の居場所」が地域にあることで、この居場所が地域のハブとなり、子育てコミュニティを形成し、「みんなが、みんなの子どもを育てる」社会を目指しています。

本事業では、2021年度から3年度※1にわたり、日本財団様の助成をうけて「佐賀県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営支援」事業を実施させていただきました。

💡 日本財団 子ども第三の居場所 紹介ページ → 



TOPICS

子ども第三の居場所『コミュニティモデル』とは

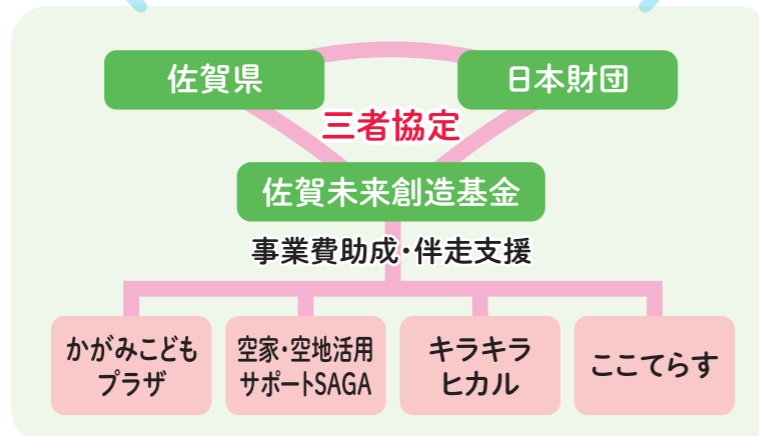
日本財団 子ども第三の居場所事業では、『常設ケアモデル』『学習支援モデル』『コミュニティモデル』の3種類の事業モデルがあり、今回取り組んだモデルは『コミュニティモデル』です。このモデルは、すべての子どもたちが、未来への希望を持ち、社会を生き抜く力を育むことのできる機会と環境を提供する居場所として、『安心して過ごせる居場所』『健康を支える食事』『正しい生活リズム』『学習サポート』『体験活動・地域とのつながり』『保護者へのフォロー』など、子どもが生活・成長するうえで必要な機能を備えるほか、地域の方も立寄り、多世代交流を行うことで、人と接する力や自己肯定感を高め、また、地域の方々とのつながりを深めて、課題のある子どもの早期発見や見守りにつなげることも期待されています。

子ども第三の居場所 開設・運営に係る伴走支援事業

本事業では、県内4団体(P3参照)が運営する子ども第三の居場所の事業に助成を行い、佐賀未来創造基金がその事業実施と、事業終了後の自立に向けた伴走支援を行う形で実施しました。

尚、本事業の実施にあたり『佐賀県』『日本財団』『佐賀未来創造基金』で三者協定を結び、官民一体となって、本事業推進の協力体制を整えました。

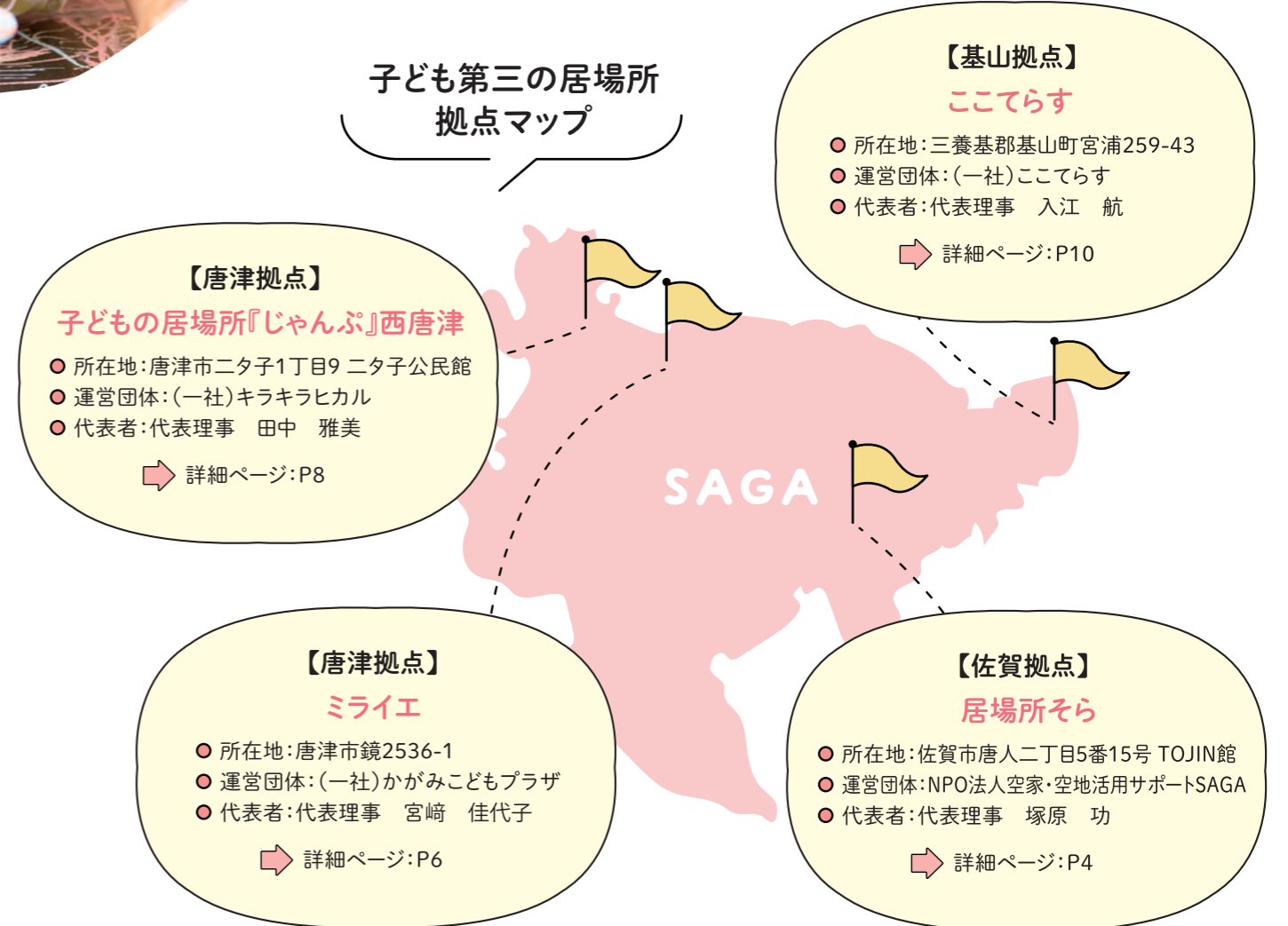
佐賀県・日本財団・佐賀未来創造基金での三者協定



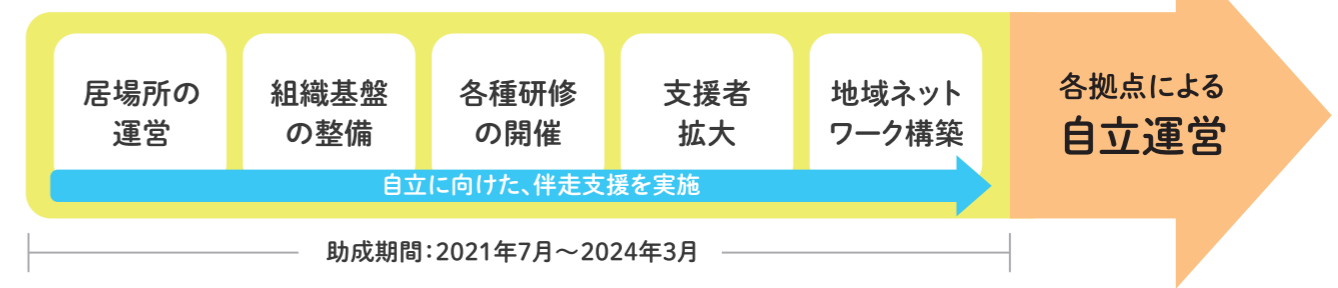
2021年11月 佐賀県知事を表敬訪問し、事業採択の報告を行いました。



子ども第三の居場所 拠点マップ



各拠点の事業実施と、事業終了後の自立運営に向けて、佐賀未来創造基金が伴走支援をさせていただきました。



※1 2021年7月から2024年3月まで



街なかで多様な交流を創出する多機能拠点

運営団体：特定非営利活動法人 空家・空地活用サポートSAGA



子ども第三の居場所「居場所そら」は、子どもやママ、地域の方々が気軽に來れて、自分の居場所として、多世代間交流の場として利用いただける空間です。

遊びに來た子たちが自由にそれぞれの時間を過ごし、一緒に來たママさん同士の交流や、子どもたちと地域の方々の多世代間交流の場として利用していただける居場所となっています。

拠点は、3階建ての建物を活用。1F・2F・3Fにそれぞれの「居場所機能」と「その他の機能」が融合されており、居場所に來た子どもたちがどのフロアで過ごしていても、大人の目に見守られているような効果を生み出しています。



ースとして活用されています。

2F(学習・食事・キッチン)・3F(プレイルーム)は、同フロアにNPO等向けのシェアオフィスもあり、入居NPOの方と連携して子どもたちに必要な支援を届ける活動にも取り組まれています。

1Fは、カフェ機能やワークスペースとしても活用できる「L-terrace」があり、居場所に來た子どもたちを出迎えたり、クリスマス・ハロウィンパーティなどのイベントを実施するスペースとして活用されています。



事業によって得られた成果

コミュニティモデルという特性を活かし、貧困などの利用条件を設けず、制限なしで受け入れ、課題のある子に対しては個別に対応するスタイルをとってきました。

開所以来、小学生のみならず、中・高・大学生や保護者様にと幅広いご利用がありました。その中で我々の考える成果として大まかに3つ挙げられます。

① 補食

長期休暇中には昼食を、通常学校日にはおにぎり、共通してお菓子・ドリンクを提供中です。

現在は日本財団の助成金で賄っておりますが、助成後も見据え当所の活動を発信し、周知の結果、個人様・企業様からのご寄付を頂き、不自由なく十分な提供ができてきました。

② 多世代交流

未就学児～自由に集うからこそその交流が生まれています。年代・学校の違う友人ができ、兄弟のような関係も築けています。それぞれ自由に遊んでいることももちろんありますが、学年問わず、皆でトランプなどをする様子は微笑ましい光景です。時に上の学年の子どもに、言葉使いや所作を注意されることも。学校では得られない独特の経験は居場所ならではのものだと思います。

③ 共働き世帯・ひとり親家庭・小4の壁

共通していることは子どもたちの「孤立」「孤食」、晩御飯の時間が遅い点です。子どもたち自身と保護者様とどちらも不安がある部分を、当所を利用することで、週3でも軽減出来ていると考えています。

運営後に見えてきた課題と対応案

近年学校は危険回避に努められていますが、家庭は共働き世帯・ひとり親家庭がほとんどを占め、学童保育も小4どころか、小3までも待機のケースがある中で、安全を確保して過ごす場所に困る「放課後難民」が増えています。犯罪や事件・事故に繋がりがかねません。

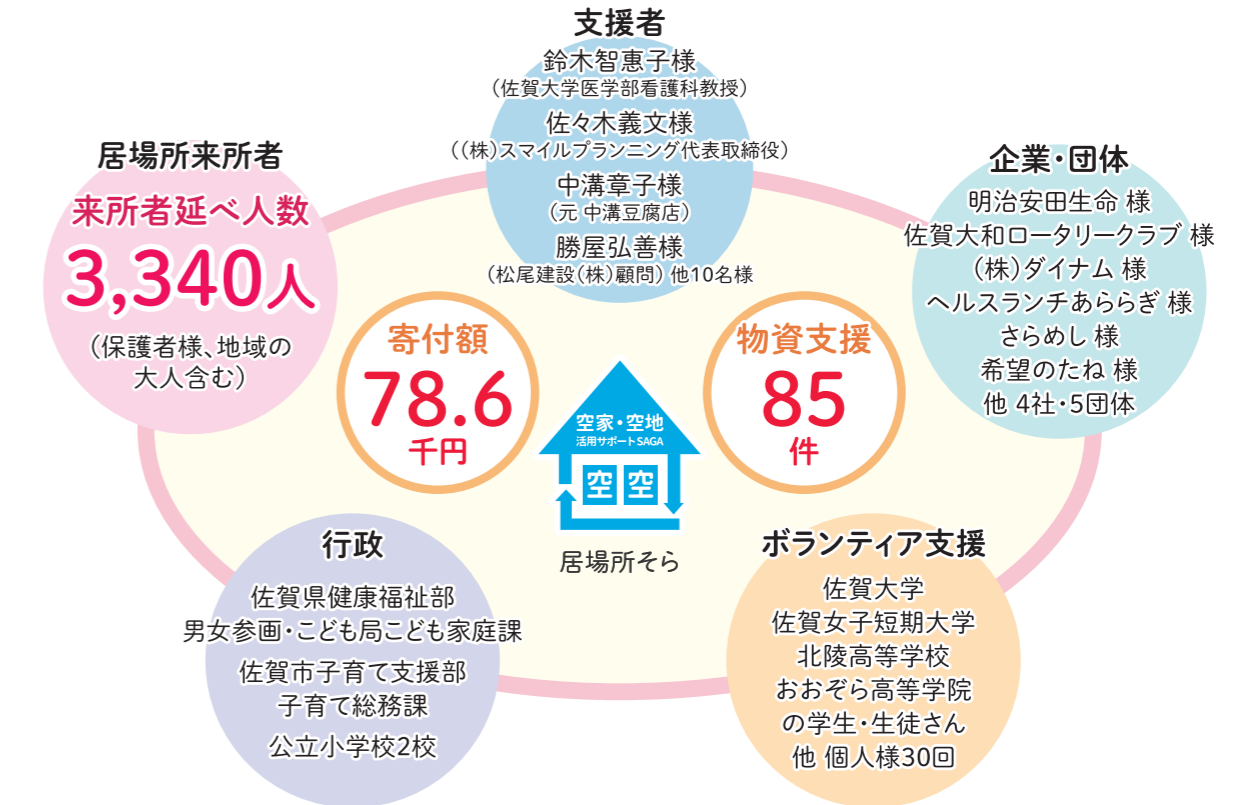
社会情勢の変化の中、併せて子どもたちの取り巻く環境を整えていくことは、待ったなしの喫緊の課題として、子ども家庭庁が発足し子どもの居場所への取り組みも盛り込ま

れています。いずれはコンテンツの1つとして行政と協力しつつ地域に根ざす居場所・子ども食堂がスタンダードになると考えています。

そして今、その過渡期であり確立期だと言えます。そのためには企業の皆様・地域の皆様のご支援・ご協力が不可欠です。どうか手も口も出して地域で子どもたちを育てて下さいますようご支援宜しくお願い申し上げます。

■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



利用者コメント Yさん(佐賀市内 子ども2人と利用中)

ご縁があつて佐賀に転居してからすぐに「そら」の事を知りそれ以来親子で楽しく通わせていただいています。
・放課後に活動できる数少ない場所
・転校生の子にとってはリラックスして過ごせる場所
・障がい児も他の健常児と触れ合える大切な場所としてとても助かっています。
今後も引き続き通いたいと思っているので宜しくお願い致します。

担当者コメント スタッフ 高山さん



開所以来常に需要はどういったことだろう?と手探りで最初からあれこれ決めず運営してきました。実際に子どもたちや保護者様の要望や現状を、聞ける範囲でお尋ねしていくうちに「居場所そら」は形づくられてきました。そして、これからも都度柔軟に形を変えるスタイルが「そら」らしいと思います。いずれ地域に溶け込んで当たり前存在になれたら嬉しいです。そのために地域には居場所が必要だと伝えていきたいです。

支援者コメント 株式会社 ダイナム さん

子供たちだけではなく、地域の方が気軽に來れる素晴らしい居場所の提供ありがとうございます。これからも微力ですが協力していきたいです。頑張ってください。

2024年度以降の開所情報

- 📍 場所：佐賀市唐人二丁目5番15号 TOJIN館
- 🕒 開所時間：月・水・金(15時～18時)
(長期休暇期間中は変更あり)
- 💰 料金：無料(イベント時は保護者負担金有り)
- ☎ 連絡先：080-4465-3524

ミライエ 遊べる♪学べる♪食べられる♪だれでもゆっくり過ごせる
(未来への家) 「子ども第三の居場所」 運営団体:一般社団法人 かがみこどもプラザ



「ミライエ(未来への家)」は、誰もが気軽に立ち寄り、大人の見守りの中で子どもたちが、安心して安全に過ごせる「子ども第三の居場所」です。小さな施設ではありますが、ここには子どもたちの大きな夢とたくさんの未来が詰まっています。ミライエは、2階建ての一戸建て施設です。

1階にはキッチン、ダイニングルーム、お風呂、洗面所、トイレがあり、遊びやお話などができるコミュニティスペースです。おもちゃ遊びやゲームなど、子どもたちは自主的に遊びを見つけ、自由に過ごします。

ここでは、平日ほぼ毎日が「こども食堂」です。夕方になるとみんなで食卓を囲み、温かい食事でお腹も心も満たされる、拡張家族のような居場所です。

2階には学習室と図書コーナーがあり、来所するほとんどの



子どもは、下校後学校から真っ直ぐミライエに来て、ここで宿題をしています。上級生が下級生に優しく教えてあげている光景は、大変微笑ましくかけがえのない時間です。また、不

定期ですが現役の小学校教諭による学習指導もあります。ミライエでは季節ごとにイベントも行います。春はイチゴ狩りやお花見、夏はプール遊びやそうめん流しにバーベキュー、秋はレクリエーション大会やゲーム大会、冬はクリスマス会や節分祭など。

2024年度は日本財団様からのご招待で「海洋体験ツアーIn沖縄」に参加させていただき、子どもたちは沖縄で貴重な体験をしました。



事業によって得られた成果

ミライエは佐賀県でいちばん児童数の多い鏡山小学校区にあります。

小学校近くにある当施設には、下校後ランドセルを背負ったまま来所する子どもが多く、子どもたちのゴールデンタイムである放課後を楽しみ過ごす憩いの居場所となっています。

また、放課後児童クラブへの待機児童も多く、下校後に子どもだけで留守番や、大型商業施設などで過ごすケースも見受けられます。

就業等様々な理由で放課後子どもと一緒に過ごせない保護者の皆さんにも、ミライエは安心を提供しています。

運営後に見えてきた課題と対応案

当団体は、「地域の子どもは地域で育てていこう」の考えのもと長年にわたり子どもの居場所づくりを行ってきました。時代の変化とともに少子化にも輪がかり、子どもたち同士の交流も希薄になってきたことで孤独孤立が大きな課題になってきています。

子どもたちにとって、今後ますます「居場所」は必要となってくると痛感しています。

子どもの健全な育成支援のためにも、引き続き皆さまのご支援をいただきながら、この「子ども第三の居場所」の活動を継続させていただきたいと思っております。

ミライエ(未来への家)紹介動画

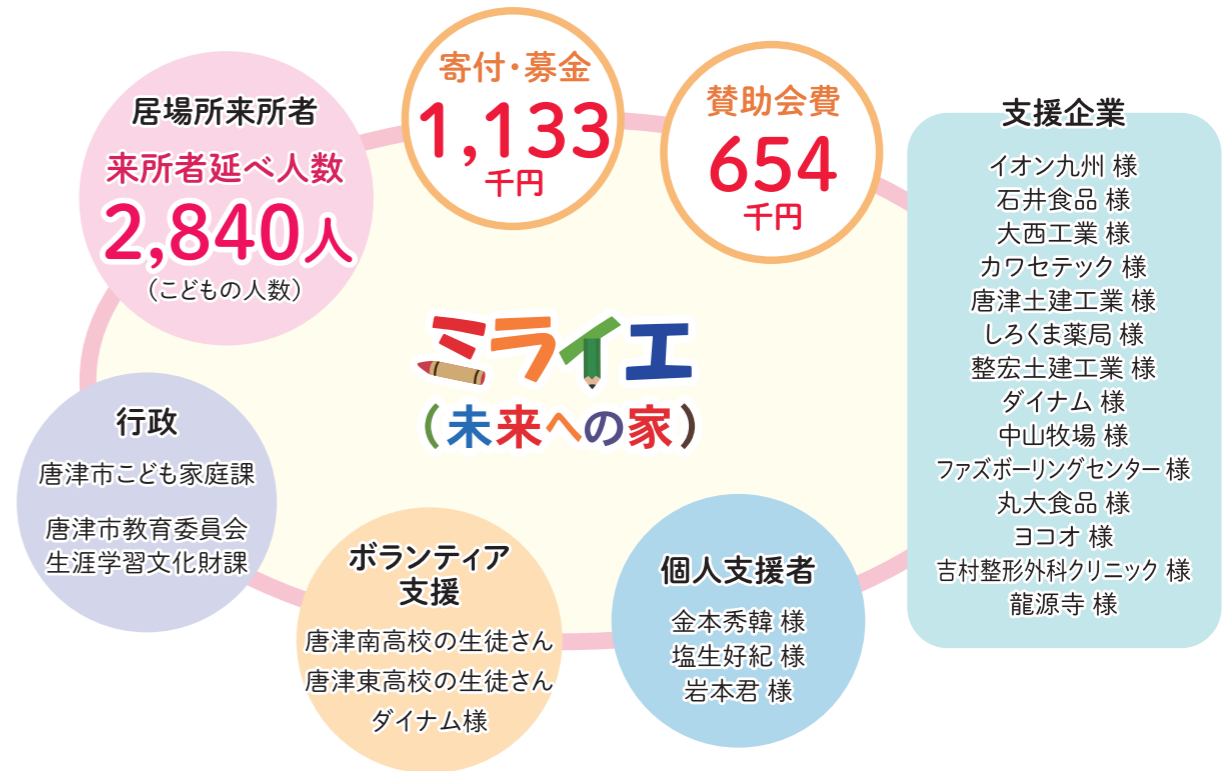
かがみこどもプラザさん作成の子ども第三の居場所「ミライエ(ミライエへの家)紹介動画がYoutubeに公開されています。

<https://bit.ly/48X5rXe>



■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



担当者コメント 代表 宮崎さん



全ての子どもは誰もが、生活を保障され、愛され、守られ、育てられる権利があります(児童福祉法第1条に基づく)。しかし、いきすぎた賤やいじめ、子どもの貧困などで、生き辛い世の中です。

社会の中に埋もれがち子どもたちに明るい未来を描いてもらいたいと願い、子どもの居場所づくりを行ってきました。

子どもたちの心の声に耳を傾け、彼らがありのままの自分でいられる居心地の良い居場所を今後も作っていく所存です。



いつもご支援くださる皆様・企業様へ

事業期間中、たくさんの食材・物品寄付を頂戴し、本当にありがとうございました。今後も、ミライエ継続の為、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

利用者コメント 岩石沙弥香さん

同学年はもちろん、ミライエでは上級生や下級生とも遊ぶことができるので、学校とは違うお友達がたくさんできました。

アットホームな環境で子供達を見守ってくださり安心していつも利用させて頂いています。

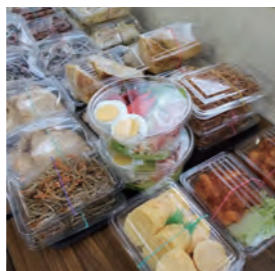
2024年度以降の開所情報

- 🏠 場所:佐賀県唐津市鏡2536番地1
- 🕒 開所時間:平日 月・金・土 (14時~17時)
- 💰 料金:無料
- ☎️ 連絡先:090-4585-1123

子どもたちが『ありのまま』でいられる居場所
運営団体：一般社団法人 キラキラヒカル



子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津は、子どもたちの『ありのまま』の姿を大切に、子どもたちが文字通り『自由』に過ごせる居場所づくりを心掛けて運営されています。放課後児童支援委員、チャイルドカウンセラー、家庭療法カウンセラーの有資格者スタッフも在籍。居場所での子どもたちへの見守りに加え、子どもや家庭からの個別相談を受け付け、必要な支援へとつなげられています。課題を感じられる家庭には、子ども宅食活動での訪問他、積極的にコミュニケーションをとり、現状把握と課題解決に向けた支援(模索・実施)を能動的に取り組まれています。また、子どもの居場所において、手作りお惣菜やおやつ



販売コーナーを設け、ひとり親家庭や仕事などで帰りの遅いお母さんの負担軽減にも取り組み、令和4年度からは、経済的課題を抱える家庭のために、唐津市内すべての中・高校の学生服、学用品、及び子ども服を地域内で循環させる『学生服バンク*』プロジェクトを始動。子どもの居場所事業を柱に、子どものライフステージにあわせた総合的な支援に取り組まれています。



事業によって得られた成果

こどもの居場所を開所して4年、少しずつではありますが地域に根付いた活動となってきました。地元自治体や学校などと情報を共有する場を持つようになり、学校に行くことが困難な子どもや、様々な困難を抱えたご家庭など、居場所だけでは解決が難しい事柄についても連携して取り組みを進めています。特に気になるご家庭には毎月1回訪問をして、食品を届けるとともに状況の確認と把握を行っています。

また本人や家族の方と定期的にコミュニケーションを続けることによって、SOSが出しやすい環境づくりに努めてまいりました。助成期間中に当法人のホームページを作成・公開することにより、より多くの方々に活動の周知を行う事ができました。居場所の開催日や実施したイベントの情報を公開することで、信用の向上にも努めています。おかげさまでこの期間中、食品などの寄付も増加してきています。

運営後に見えてきた課題と対応案

アフターコロナとなり、地域の公民館行事が元に戻ってきたことで、居場所の開所が困難な機会が増えました。開催を維持するために、場所をどのように確保していくかが今後の課題となっています。第三の居場所を継続的に運営するためには、支えていた

だけの賛助会員の皆さまをさらに増やしていかなければなりません。私たちの活動をより広く周知し、多くの皆さまの共感を得ながら、共にこの活動をつづけていきたいと思えます。

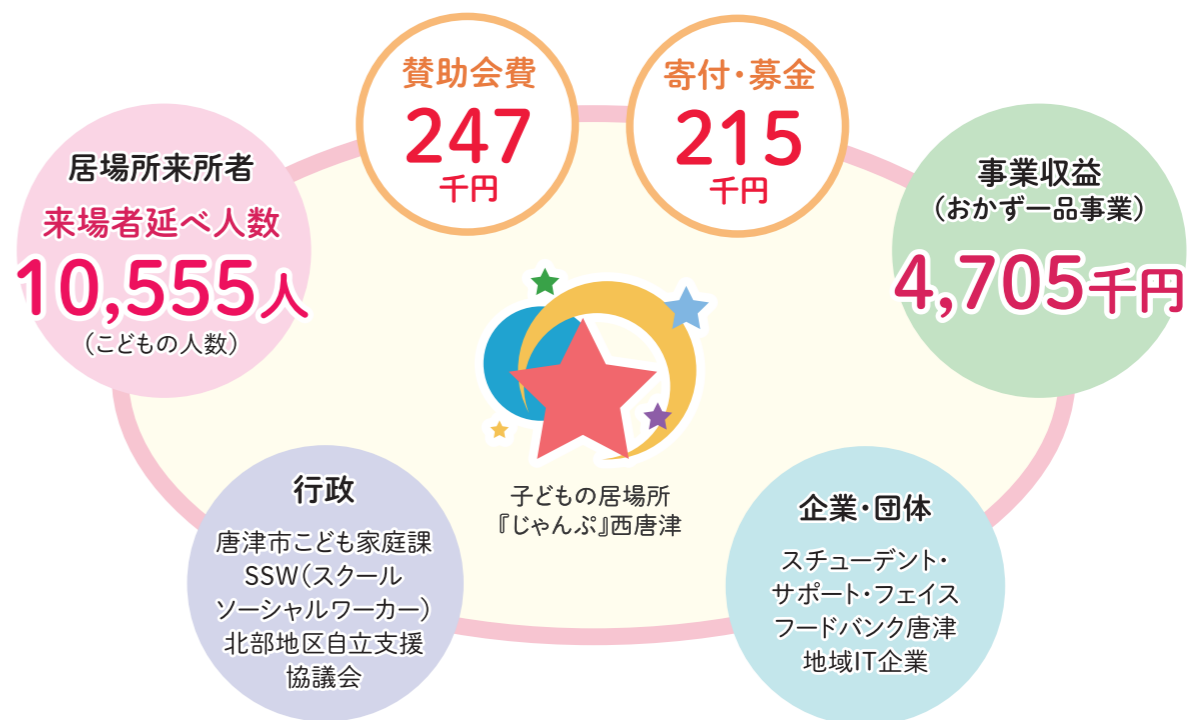
※ 学生服バンクプロジェクト「こねくとnet」について

学校卒業後、ご家庭で不要になった学生服や学用品、子ども服などの寄贈を受けて、取りまとめ、補正・補修などを行い、経済的な理由で学生服等を購入することが困難な子どもたちへつなぐ活動です。



■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



利用者コメント 本吉佳子さん

子どもたちの笑顔があふれる心地よい「じゃんぷ」がこれから先も継続・発展されますことを心より願っています。

担当者コメント スタッフ 牧山さん

子どもの居場所「じゃんぷ」西唐津は2020年8月、3名の子ども利用からスタートしました。「もっと子どもたち一人ひとりに寄り添い、必要に応じて手厚い支援の手を差し伸べたい」当初の想いはブレることはありません。子どもたちの「ありのまま」に寄り添いながら傾聴に重きを置き見守りを行っています。居場所の必要性を感じながら、日々、子どもたちと関わっています。

利用者コメント 井上みちるさん

「じゃんぷ」は、ありのままの存在を肯定してもらえる居場所だと感じています。まるで、第二の実家。同じように感じる方が増えてくれると嬉しいです!

利用者コメント 山下沙織さん

子供たちがのびのび過ごせ、あたたかく見守られている環境なので、安心して送り出しています。ステキな活動をして下さり感謝しています。

2024年度以降の開所情報

- 場所: 佐賀県唐津市ニタ子1丁目9 (ニタ子公民館)
- 開所時間: (基本) 毎週 月・木・土 (13:15~19:00)
- 料金: 無料
- 連絡先: 080-1702-9031



いつでも誰でも肯定しあえる、みんなで作る居場所

運営団体：一般社団法人 ここてらす



地域の就労福祉団体がデザインし、みんなで手書きしたという壁画アートが印象的な「ここてらす」。

アート内では、春夏秋冬を象徴するイラストの中で、すべてのキャラクターが「肯定」を意味する「グッドサイン」をしており、「いつでも、誰でも、肯定し合える」空間が表現されています。

子どもの居場所運営においても、なかなか馴染めていない子がいたら、さりげなく一緒にご飯を食べたり、保護者さんが仕事でお迎えが遅くなるなどの場合、個別に延長対応したりと、子どもたちに「ひとりじゃない」を肌で感じてもらえる

よう意識して活動されています。また、寄付で譲り受けたというピアノもあり、ピアニストによる親子コンサートが開催されたり、居場所の閉所日は、レンタルスペース・レンタルキッチンとして間借りできる機能も備えており、地域の親子・ママさんたちの交流の場としても利用できる居場所となっています。

来所した子どもたちが、自発的に出来る範囲でのお手伝い(片付けや皿洗い等)を行うなど、子どもたちにとっても「みんなで一緒に作る居場所」として参加されています。



事業によって得られた成果

この3年間で個人賛助会員延べ136人、法人会員33社からご支援をいただきながら活動を続けてきました。会員以外にも、定期的な食糧支援などの協力をしてくださる個人や企業の皆さまも多く、とても心強い仲間が増えてきています。

日本財団さんや佐賀未来創造基金さん、基山町を含め、多くの方にここてらすを支えられ、今を迎えられていることを感謝いたします。おかげさまで助成期間中延べ2,500人の子どもたちを受け入れることができました。

続けてきた中で彼らの成長や変化を日々実感しています。小学生だった子が中学生になり、食後の皿洗い等を手伝ってくれるようになりました。また中学進学を不安に思っていた子に対して「怖くないよ」と中学生が優しく励ましていました。このようにここてらすにいる大人とだけでなく、子どもたち同士での会話や助け合いも多く見られました。

他にも、親子での利用の際に「食べるって楽しいね」という言葉が子どもから出てきました。普段はキッチンと食卓という離れた位置関係が、ここてらすでは隣同士に座りゆっく

運営後に見えてきた課題と対応策

ここてらすではより多くの子どもたちを受け入れられるよう、内装や空間づくりで工夫を続けています。また新しい活動として、いただいた食品や日用品などを、必要な方に自由に持って帰っていただけるパントリーコーナーも設置しました。2023年秋には基山町のスクールソーシャルワーカーの方を通して、地域の支援を必要とされている子育て世代

りとお話をしながら食事をとれたことで出てきた言葉ではないかと思えます。こうした一人一人の変化を感じながら、親子や地域の方々が心の安寧を感じられる居場所を続けています。

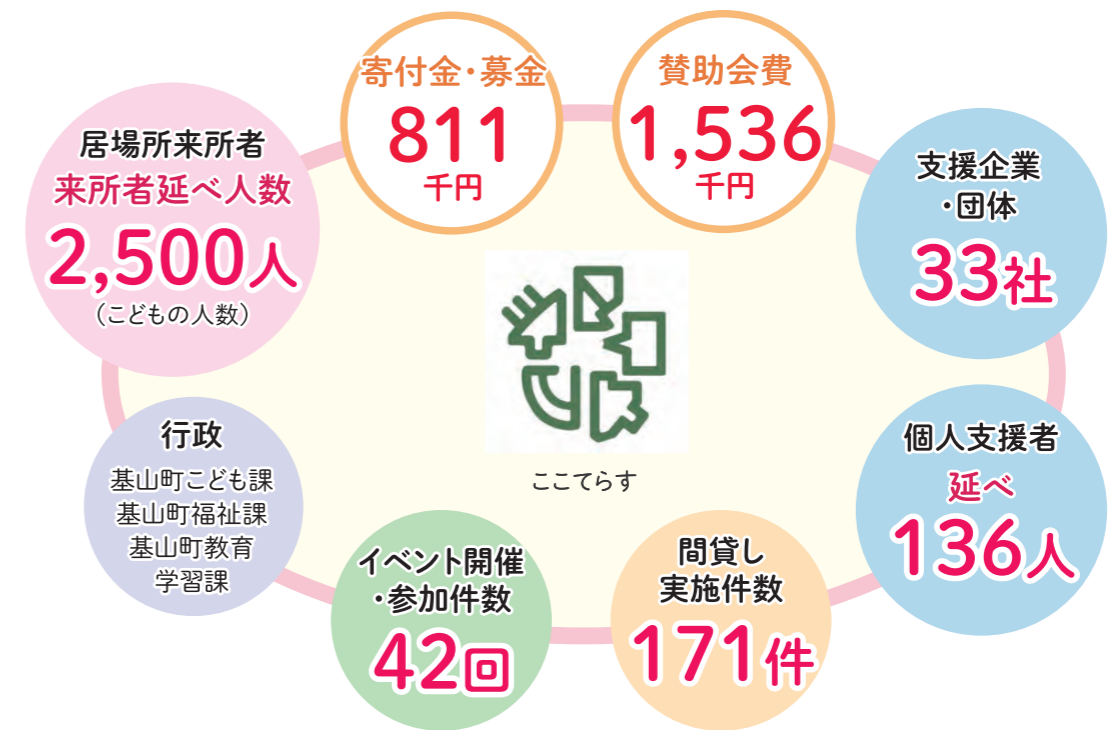
コロナ禍、さらには物価高騰と厳しい環境が続くなか、子どもたちの「放課後の居場所」があることでご家族の就労支援の場としての役割も果たしているのではないかと感じております。

また地域と繋がる活動として居場所閉所時に「時間貸し」をしており、たくさんの飲食店さんが出店してくださっています。初めての間借りをここてらすで行い、その後実店舗を持つようになった方もいました。ここてらすとしては起業を後押ししてきただけでなく、自分たちでは繋がれなかった多くの方に足を運んでいただくことができました。そこから賛助会員になってくださる方や、募金箱に寄付いただく方など、たくさんの繋がりが生まれ、ここてらす・出店者さん・地域の皆さんにとって好循環が生まれていると感じています。

への宅食やお弁当配布も開始しました。しかしながら、必要な方に情報が届いているのか、必要な方が利用しやすい仕組みになっているか不安は絶えません。さらなる資源調達へのチャレンジやボランティア募集を続けながら、子ども第三の居場所及びこれらの支援活動を続けてまいります。

■ 事業実施により得られたステークホルダ

(令和5年12月現在)



利用者コメント 大原さん

ここてらすを利用させてもらって本当に助かっております。理由はいくつかあるのですが、金銭面でも大きく助けられている他、仕事で遅くなったときに帰ってきてから準備等をはじめると食事の時間が遅くなり、寝るのも遅くなってしまいます。また、子どもが安心して行ける場所なので親としても不安がなく、スタッフの方が子供たちとの距離感を大切にしてくださるよう感じるため、そこでの信頼というものが子供たちは育んでいると感じています。子どもたちも楽しく過ごさせてもらっており、本当にありがとうございます。

支援者コメント 株式会社ワイ・デー・ケー九州 管理本部 西美恵子さん

「ここてらす」の入江さんは当社の従業員の息子さんというご縁でご支援させていただくことになりました。当社も地域への社会貢献活動を模索していた中で新入社員研修会の一環で事業紹介の講和をいただいたりこちらから訪問させていただくことは、地域の活動やその実情を知るきっかけにもなっております。ただ単純に寄付をするだけでなく「ここてらす」を起点にいろいろな事に繋がっていけば、地域も企業も共に発展できると感じています。若者目線でチャレンジしてってください。応援しています。

担当者コメント 代表 入江さん



この3年間の間にたくさんの方に自分のできることを考え様々な支援をしていただきました。本当にありがとうございます。

これからも、子どもたちや地域のつながりや心の安寧につながる活動を行なっていきます。ここてらすという空間が子どもたちにとってどういう空間になるのか、基山町や地域をどう盛り上げられるか、ここてらすの変化を皆さんと一緒に作ってまいります。今後とも応援、お力添えよろしくお願い申し上げます。

2024年度以降の開所情報

- 📍 場所：佐賀県三養基郡基山町宮浦259-43
- 🕒 開所時間：月・水・金(17時～20時)
- 💰 料金：無料
- ☎ 連絡先：090-8350-1564

伴走支援の取り組み | 佐賀未来創造基金

本事業では、子ども第三の居場所を開設・運営される4拠点に対し、単に助成金を交付するだけでなく、その運営や組織基盤強化、事業終了後の自立運営に向けての各種伴走支援を実施させていただきました。

組織基盤整備支援

助成事業を実施するうえでの会計記帳や、法人運営において発生する各種義務やタスクについての相談を受け、必要な支援や専門家とのマッチングを実施。

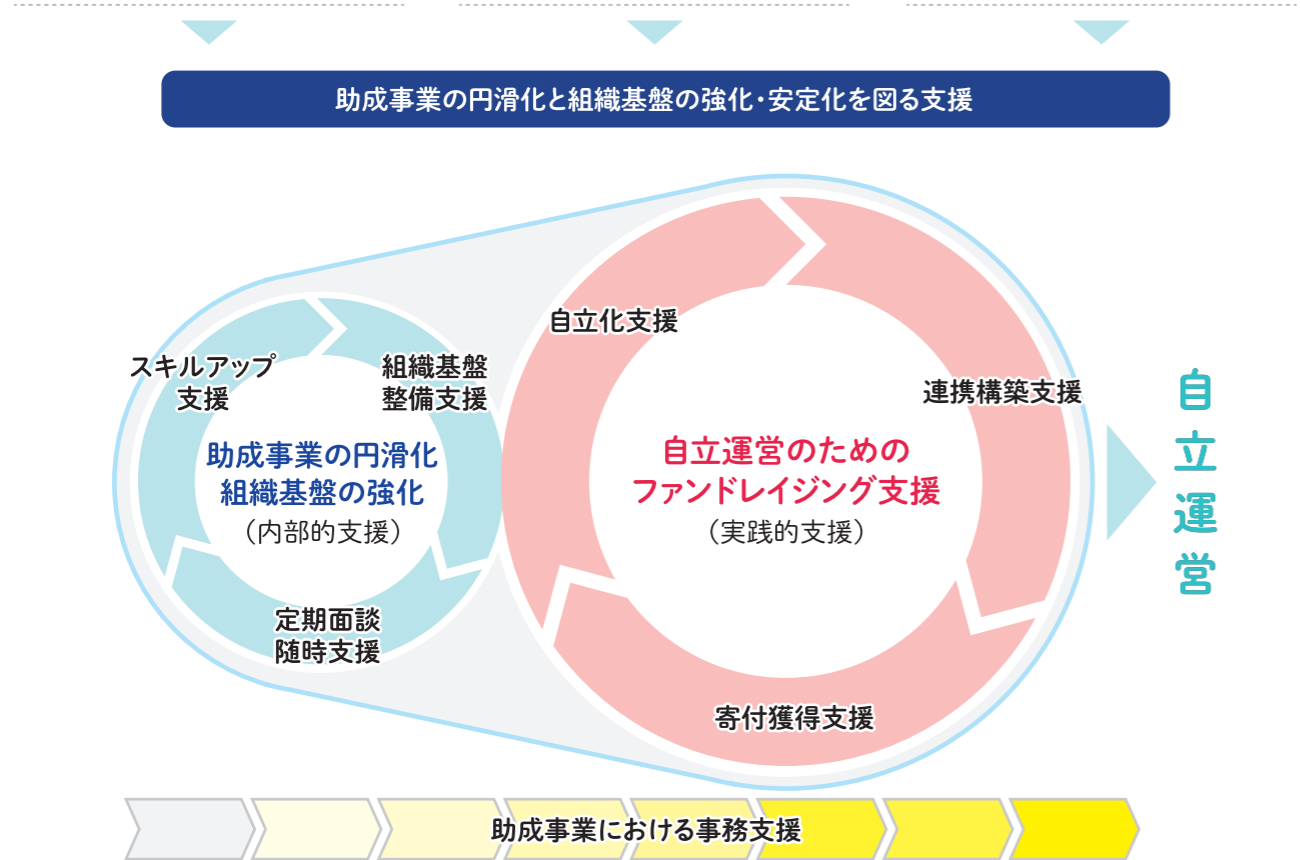
定期面談／随時支援

毎月の定期面談において、事業進捗の確認や、そのほか今困っていることなどを随時相談受け付け、支援しながら各拠点が事業に集中して活動できるよう支援を実施。

スキルアップ支援

事業終了後の自立化と、円滑な拠点運営に資するためのスキルアップ研修を実施。

- ・子どもの居場所 総論
- ・ファンドレイジング
- ・情報発信／デザイン／IT活用



自立運営のためのファンドレイジング支援

連携構築支援

各拠点への継続的な支援につながるよう、行政や各種団体・企業等との連携構築に向けた情報共有を実施。

- ・佐賀県子ども家庭課(毎月)
- ・佐賀市、唐津市、基山町へは継続的に訪問

寄付獲得支援

法人や事業所への寄付訴求の営業同行や支援企業とのマッチング等の支援を実施。また、募金箱を使った地域支援者との継続的な関係づくりや、寄付決済システムを使った寄付メニューの提供などを実施。

自立化支援

各拠点の自立化に向けた、ファンドレイジングを総合的にコンサルティング。定例で目標の設定から進捗、状況に応じた路線変更などを拠点と一緒に考え自立へのアプローチを可視化していきました。

各拠点と同行で、市町首長へ事業開始のご報告と支援・協力依頼の表敬訪問を実施



【佐賀市長表敬訪問】居場所そら 2022.03.05



【唐津市長表敬訪問】ミライエ・子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津 2021.12.24



【基山町長表敬訪問】ここてらす 2021.12.24

各拠点における地域説明会の実施／事業説明



ミライエ 地域説明会 2021.10.25



ここてらす 地域説明会 2021.12.23



子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津 地域説明会 2022.01.27



居場所そら 地域説明会 2022.03.08

出軌戦略伴走支援

2023・ここてらす①

■ 助成事業に向けて (2024年4月開業のイメージ)		
2023年度助成金の使途 (ファンドレイジング目標)	2023年4月時点の計画	
事業・人員費	年間の計画 1,200万円	この計画はファンドレイジングで集める「ここてらす」の目標とする。
入居費	50万円×3人×1(150万円)	自立化準備は入居費以外の設備も必要(入居費以外の設備収入を確保)
その他	設備費、消耗品費 250万円	設備費を事業収入で対応したい。
会社	ファンドレイジング目標 350万円 (2023年度助成金150万円、自己資金200万円)	4,800円

各拠点が自立運営するために必要な目標・資金を割り出し、それに向けてどのようなファンドレイジングを行っていくのかを検討。月次で進捗状況を確認しながらアドバイスや必要に応じた支援を実施。

各拠点の寄付訴求リーフレット制作



寄付を集めるための広報ツールとして、各拠点と一緒に考え各拠点ごとのリーフレットを制作。寄付を集めるためには、どんな情報が活用できるのか、どんなターゲットに向けて活用していくのかなどファンドレイジングを進めるうえでの実践研修となりました。

個別研修により寄付訴求のためのホームページ制作支援

キラキラヒカル(子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津)

かがみこどもプラザ(ミライエ)

居場所そら、ここてらすについては、既存のホームページについて、コンテンツやデザインについての、研修を実施。

事業指定寄付プログラムを立ち上げ、寄付集めのツールとして提供

弊財団のホームページに、子ども第三の居場所事業の周知LPを制作。また、各拠点ごとに事業指定寄付プログラムを立ち上げ、オンライン決済システムを利用して、支援者が拠点へ寄付ができるプラットフォームを構築しました。

活動状況・履歴や拠点内情報を蓄積するWEBデータベースの提供

日々の活動や、居場所開催に関する情報を蓄積していくことで、今後の助成金申請や情報発信などに有用な情報財産になることを示唆し、それらをWEB上で登録・編集・管理できるデータベースシステムを開発。日々の活動を記録していくことで、将来必要な時に活用できることを体験していただける環境を提供。

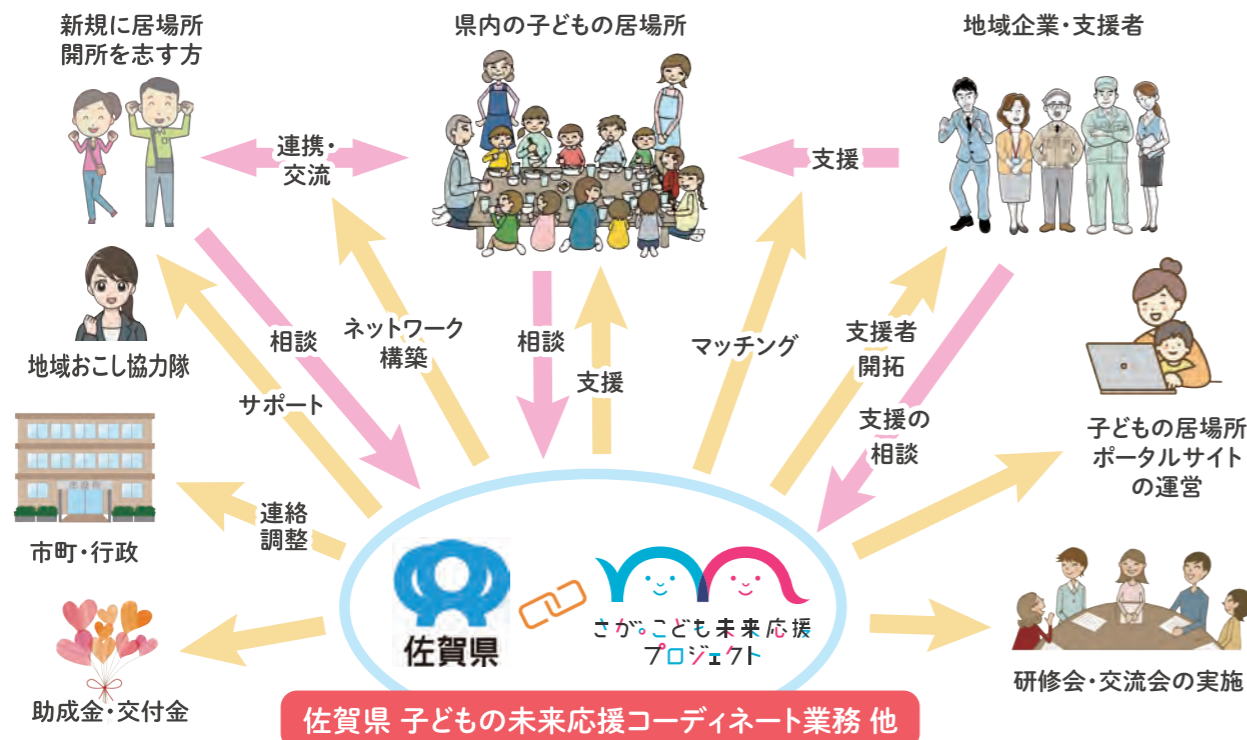
TOPICS

地域企業への寄付営業の流れから、当該企業での新人研修(SDGs)で、子どもの居場所についての活動を講義させていただき機会へつながり、結果的に講義を実施したここてらすにご寄付をいただくことができました。

また、その後も、職員さんがここてらすを訪問して下さるなど、寄付訴求活動が、居場所と地域企業とのつながりを創出した事例となりました。

佐賀県における行政との包括的な協働

佐賀県では、子どもの居場所をはじめとする子どもの貧困対策と、それに必要な地域資源を提供する企業等とのマッチング支援を行い、居場所の継続的な運営を後押しし、子どもの貧困対策の推進を図る取り組みを実施されています。子ども第三の居場所 4拠点においても、上記バックアップの恩恵を受け、より効果的な事業展開を実施することができました。



さが子どもの居場所のほん

子どもの居場所新規立ち上げや、運営のための豆知識、県内の子どもの居場所紹介などをまとめたガイドブックを作成。子ども第三の居場所(本事業)から2拠点も事例として紹介されています。

子どもの居場所ポータルサイトの運営

佐賀県内の子どもの居場所一覧や、支援者情報、助成金情報などを随時更新し、既存の居場所運営者や新規立ち上げを志す方々へ、ホットな情報をお届けしています。

各市町からの応援メッセージ

野中 美香さん
佐賀県 男女参画・こども局こども家庭課 課長

地域のつながりが薄れ、そこで暮らす人々の孤独・孤立化が心配される中、こども達が気軽に立ち寄れて、「ほっと」できる場所はこどもの成長にとってとても大切な存在だと考えています。今回の事業を活用して運営されている4つの居場所は、いずれも地域のこどもたちにとってなくてはならない大切な居場所になっています。そのような居場所を絶やさず、自立した運営を行っていくには、各方面からの継続的な支援が必要不可欠です。たくさんの方に愛され、応援をいただきながら継続的な運営、そして発展につながることを期待しています。

藤本 哲也さん
佐賀市 子育て支援部 子育て総務課 副課長兼子育て政策係長

(居場所そらへの応援メッセージ)

日々の居場所の運営について、試行錯誤されながらも、子どもたちのためという熱い思いを持って運営に尽力されていることと思います。今では勤興小学校や成章中学校だけでなく、校区外からの利用や高校生などの幅広い利用があり、地域の重要な居場所として機能しています。今後も子どもや地域の方々にも愛される居場所であり続けるよう、市としてもサポートを続けていきます。

楠田 美佐さん
唐津市保健福祉部副部長兼こども家庭課長

(子どもの居場所『じゃんぷ』西唐津・ミライエへの応援メッセージ)

家庭でも学校でもない、こどもたちが自分らしくいられる“第三の居場所”は、孤独・孤立が問題視されている現代において、地域で暮らすこどもだけに限らず、こどもを育てる保護者にとっても大変重要なものになっています。日頃より「こどものために」という想いで、こども同士のつながり、地域とこどものつながり、保護者とのつながりを生み出すべく居場所の運営に尽力されている皆様には、心より敬意を表します。本市としましても「すべてのこどもが夢や希望に向かって成長できるまちづくり」を目指して、こどもたちがのびのびと成長できる環境、ホッとできる居場所が更に広がっていくよう、協力していきたいと考えています。

舟木 徳茂さん
基山町 こども課 こども未来係主幹兼こども家庭係長

(ここてらすへの応援メッセージ)

ここてらすは、家庭が抱える困難が複雑・深刻化する中、子どもが安心して過ごせる居場所を「みんなで一緒に作る」という理念のもと、一つひとつ課題を解決しながら様々な工夫を凝らした地道な活動を実践され、地域や子ども達にとってなくてはならない居場所となっています。基山町はここてらすの事業に対して連携・協働する協定を締結しており、今後も、子ども達が孤独を感じることなく、安心して過ごすことができる居場所であり続けるよう、応援していきます。

唐津市の子ども第三の居場所支援事例

2021年	2023年
ミライエ建築業者選定にかかわる入札会の支援	自走年度に向けた民間児クラ委託・他委託事業の相談支援
地域説明会での同席・支援呼びかけ協力	「イオンdeこども食堂」と第三の居場所とのマッチング
子ども第三の居場所開所式実施協力	市役所での子どもの居場所お弁当販売の実施協力*
子ども第三の居場所地域説明会での同席・支援呼びかけ協力	地域企業への支援呼びかけ・営業同行

(随時対応)地域からのお問合せ対応・助成金情報の提供 他



POINT 事業期間中、唐津市様より、積極的なパートナーシップでサポートいただきました。「ミライエ」「子どもの居場所「じゃんぷ」西唐津」の地域説明会同席・説明協力などの後方支援的なことから、子どもの居場所の資金調達としてのお弁当販売*を唐津市役所内で実施できるよう協力していただき、文字通り二人三脚でご支援いただきました。

* 市役所でのお弁当販売は現在休止中

子ども第三の居場所を応援する

2024年3月末をもって、日本財団 子ども第三の居場所コミュニティモデルの運営事業助成期間が終了し、これから各拠点においては、自立運営がスタートします。

2024年度以降も、地域の子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供しつづけていくために、皆様からの暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

空家・空地活用サポートSAGA 「子ども第三の居場所」 居場所そら のご支援をお願いします。 	かがみこどもプラザ 「子ども第三の居場所」 ミライエ のご支援をお願いします。 	キラキラヒカル 「子ども第三の居場所」 子どもの居場所 『じゃんぷ』西唐津 のご支援をお願いします。 	ここてらす 「子ども第三の居場所」 ここてらす のご支援をお願いします。 
--	---	--	--

上記QRコードからご寄付いただく場合、佐賀未来創造基金の決済システムを利用しており、税制優遇が受けられます。

担当者ごあいさつ



(公財)佐賀未来創造基金
徳永 紘一郎

事業期間中、主に事務的な分野(契約関係、組織基盤整備、事務処理、情報発信、会計、IT活用、事業報告等)にてお手伝いさせていただきました。

各団体さんそれぞれに子どもの居場所や来所する子どもたちへの熱い思いをお持ちで、活動状況等を伺う中で、何度も頭が下がる思いを抱きました。

地域に必要とされる子どもの居場所としてご尽力されている団体さんが、安心して事業に集中していただけるよう心掛けておりましたが、逆に私の方が学ぶことばかりで、4団体の皆様へは感謝の気持ちでいっぱいです。

日々の居場所運営と、自立のためのファンドレイジング活動を並行して地道に実施していくことは、たいへんなことだったと思います。地域の子どもたちのためにビジョンをもって、本事業を全うされたことに敬意を表します。

この三年間の取り組みが団体さんの糧となって、今後も発展されていくことを期待しています。ありがとうございました。



(公財)佐賀未来創造基金
高山 哲也

子どもたちと地域との関係性の希薄化が進行し、孤立する子どもたちや子育て世帯が増加する現代社会において、彼らが安心して過ごしながらコミュニケーションを続けられる場として「子ども第三の居場所」が果たす役割は大きいと実感する期間でした。

また、コミュニティモデルらしく地域との交流やイベント開催など、子どもたちにとって素敵な体験がたくさんありました。

ここで過ごす子どもたちが、今後社会でより良いつながりを作っていくくれたら嬉しいと思っています。

これらの素敵な居場所が、広くみなさまのご支援をいただきながら、地域社会とより良い関係を作っていくよう引き続き応援してまいります。

子ども第三の居場所支援者(ボランティア含む)の皆様

本事業におけるご協力者様、並びに各団体への支援者様のうち、本書作成にあたり各団体より提供のあった方々を列記しています。誤字脱字やお名前の不掲載などあるかと思いますが、限られた期間内での制作につきすべての支援者様への掲載可否確認等が困難な為、あらかじめご了承ください。

個人の支援者様(順不同)

原野様 / 塩生好紀様 / 進藤様 / 瀬戸様 / 原様 / 牧山様 / 末武純様 / 市川雅統様 / 金本秀韓様 / 鈴木智恵子様 / 佐々木義文様 / 中溝章子様 / 勝屋弘善様 / 近藤悟様 / 新谷麻衣子様 / 樋口智啓様 / 江頭聖子様 / 瀬川咲様 / 中村昌史様 / 丹羽諭様 / 織田芳正様 / 瀧川一幸様 / 塚本泰男様 / 宗貞貴洋様 / 入江貴司様 / 田尻真奈美様 / 國松枝里花様 / 原田光様 / 月足教信様 / 安藤容子様 / 下楠園秀明様 / 宮崎知幸様 / 田中真知子様 / 内川実佐子様 / 戸野祥吾様 / 調浄信様 / 佐々木信行様 / パヒール有希子様 / 藤岡豪弘様 / 古賀大輔様 / 佐久間政吾様 / 進藤善登様 / 西川彩菜様 / 小山功様 / 浦上智明様 / 大津厚聰様 / 中井けんと様 / 三戸田香菜子様 / 寺崎志恩様 / 西村さき様 / 加藤武也様 / 安西和行様 / 甲斐賢一様 / 藤本正明様 / 生島到様 / 芝田倫子様 / 堀田朋男様 / 北川友浩様 / 佐藤浩二様 / 佐藤容子様 / 原田晋也様 / 内藤直樹様 / 藤田由貴子様 / 荒巻綾子様 / 村越奈美様 / 坂口麻衣子様 / 青木綾子様 / 馬場絵美様 / 牟田太一様 / 萬年順子様 / 高橋明果様 / 山口久弥様 / 上田美奈様 / ZABU様 / 吉岡麻衣様 / 西依裕美様 / 飛松純子様 / 中西様 / こがひろえ様 / 古賀英治様 / 佐久間梢様 / 大久保わづ子様 / 大熊充様 / 井出良太様 / 中村富美夏様 / 中井多恵様 / 堤一茂様 / 柴山美智子様 / 加藤武也様 / 白川大智様 / 上水流剛様 / 藤田有佳様 / 三橋国忠様 / 橋本高志様 / 佐々木優様 / 小川由季子様 /

法人・事業所・団体等の支援者様(順不同・法人格省略)

イオン九州様 / 石井食品様 / 大西工業様 / 唐津土建工業様 / カワセテック様 / しろくま薬局様 / 整宏土建工業様 / ダイナム様 / 丸大食品様 / ヨコオ様 / 吉村整形外科クリニック様 / 鏡地区民生児童委員会様 / 明治ホールディングス株主の皆様 / ファズボウリングセンター様 / 龍源寺 / 中山牧場様 / 明治安田生命様 / 佐賀大和ロータリークラブ様 / ダイナム様 / ヘルスランチあららぎ様 / さらめし様 / 希望のたね様 / 佐賀大学の学生さん / 佐賀女子短期大学の学生さん / おおぞら高等学院の生徒さん / 北陵高等学校の生徒さん / 唐津南高等学校の生徒さん / 唐津東高等学校の生徒さん / やんやんやん様 / テル薬局様 / ヤナギマチ調剤薬局様 / LikeLab様 / うきはの宝様 / 塗まる様 / ワンダフルリア様 / スパイス計画様 / エイトスパイス様 / Cocodrilo様 / フィールドソリューションズ様 / 行政書士吉田法務事務局様 / ことりんく様 / Kikomakes様 / とまはぐ様 / ワイ・デー・ケー九州様 / coco.parts.accessory様 / 天洋丸様 / 魚よし様 / Main hair Clinic様 / トリゼンフーズ様 / 中山身語正宗 大本山 瀧光徳寺様 / 浄土宗 照福山 顕光院 圓應寺様 / センター薬局様 / ばるっこ様

行政等

佐賀県健康福祉部男女参画・こども局こども家庭課様 / 佐賀市子育て支援部子育て総務課 / 唐津市保健福祉部 こども家庭課 / 基山町こども課 / 基山町福祉課 / 基山町教育学習課

記載内容に加除訂正が必要な場合は、ホームページにて対応いたします。

上記、支援者様の氏名・名称については、本書の作成にあたり、各拠点との共同で細心の注意を払いながら作成しておりますが、万が一 誤字・脱字、記載漏れなどがございましたら、佐賀未来創造基金ホームページにて、随時更新させていただきますので、予めご容赦ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。



(公財)佐賀未来創造基金(子ども第三の居場所)への寄付金に関する税制上の優遇措置

当財団への寄付金については、個人で寄付された場合は、所得税法第78条第2項及び、租税特別措置法第41条の18の3の規定に基づき、法人で寄付された場合には、法人税法第37条第4項の規定に基づき、税制上の優遇措置を受けることができます。税制上の優遇措置を受けるためには、確定申告に際して、当財団が発行する寄付受領書が必要となります。